



平成29年度認知症介護研究・研修仙台センター運営事業費による研究
 「家族介護者支援へのICTを活用した効果的介入方法に関する研究」

ICTを活用した認知症の人を介護する家族介護者支援

目的

本研究は、ICTを活用し、専門職と家族介護者の信頼関係の早期構築や、家族が地域とのつながりの回復を促進することを目的としています。今年度は、ICTツールを開発するための基礎的なデータを収集しました。

概要

主な事業内容

- 家族会への参与観察
 仙台市内の区単位で地域支援事業により開催される「認知症の介護者交流会」7ヶ所で参与観察を行いました。
- 家族へのヒアリング調査
 実際に在宅で介護する家族に対し、どのように情報を収集し何を参考に介護をしたのかを聞き取り整理しました。
- ICTツールの試案の作成
 情報収集が目的ではない、ソーシャルサポートとなるICT活用を検討しました。

主な結果・成果

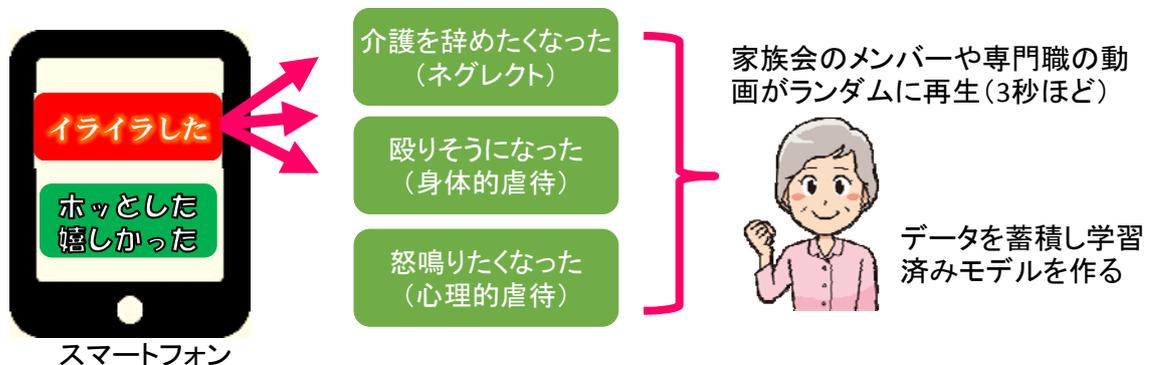
■ 明らかになったこと

家族会への参与観察とヒアリング調査より

診断直後に医療機関から得られる情報や助言は役立つものであるが、限定的で継続的な支えにはならない。その後、家族会で同じように介護をする家族との出会いによって情緒的支援を受ける。また、認知症カフェなどで専門職とつながり、情動的な支援を得られることが多くみられた。これによってソーシャルサポートが得られるものの夜間の対応で大きな負担を抱えていることが課題として残ります。

■ ICTツールの支援作成

家族会での参与観察のヒアリング調査の結果、①診断直後で要介護認定前から専門職とつながり情報を得ること②デイサービスの時間外や夜間などで特にサポートが必要であることが明らかになりました。それは、単なる情報ではなく、専門職とのつながりを感じることで、つまり情緒的サポートが得られることが重要です。それを踏まえて以下のようなICTツールの開発を検討しています。



今後の展開

来年度は実際に試作したアプリケーションを使用し、実際に介護をしている家族にモニター実施を行います。その結果からデータを蓄積し、学習済みモデルのバージョンを作成していきます。



平成29年度 運営事業費による研究

「認知症についての学習環境・eラーニングシステムを効果的に活用できる環境支援と普及啓発に関する研究」

目的

本事業では、eラーニングシステムによる学習ニーズの把握を行い、新任の介護職員等や認知症の人に携わる可能性がある人が学習しやすいeラーニング環境づくりの検討と、認知症ケアの質向上につながるコンテンツの検討を目的とし実施しました。

概要

主な事業内容

○「認知症についての学習・教育ニーズ」に関する調査の実施

認知症ケアや認知症に関する教育方法等、eラーニングに関する質問紙調査を実施しました。

仙台センターにおける、平成29年度認知症介護指導者養成研修及び認知症介護指導者フォローアップ研修受講者45名にご協力いただきました。

主な結果・成果

表1 認知症に関する教育(研修)の方法(n=45)(複数回答)

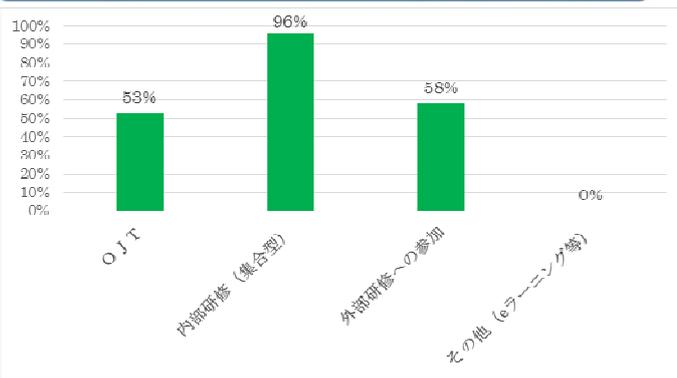
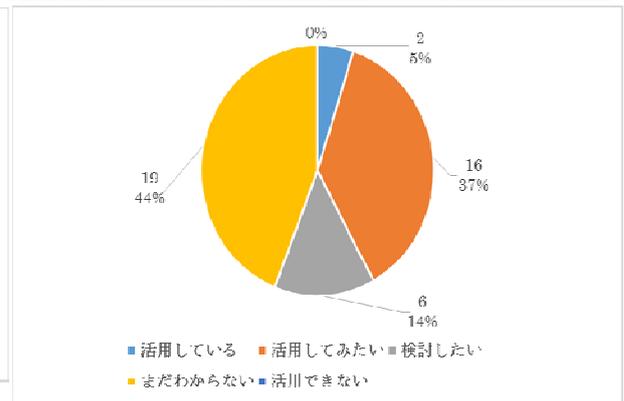


表2 自施設の内部研修において、eラーニングを活用したいと思うか(n=45)



○「表1 認知症に関する教育方法等について」

教育方法として、内部研修の実施96%や外部研修への参加58%、OJT実施53%と多くが教育の必要性和重要性を認識しているものの、自由記述から、内部研修は「参加者が固定されている」、外部研修への参加は「人員不足で参加させられない」「業務に支障が出る」、OJTシステムについては「システムがない」「人によって教え方が違う」など教育方法に対して、多くの課題を抱えていることが明確になると共に、内部研修での参加についても困難な状況にあることがわかった。

これにより、より実践者研修と実践リーダー研修への参加率向上への取り組みを考えるとともに、eラーニングシステムを効果的に活用できる学習方法を検討する必要性があると考えられる。

○「表2 eラーニング(インターネットを利用した学習形態)について」

自施設の内部研修でeラーニングを活用してみたいかに関しては、「活用している」2人(5%)、「活用してみたい」16人(37%)、「検討したい」6人(14%)、「まだわからない」19人(44%)と、比較的後ろ向きな意見が多かった。これは、eラーニングを活用した研修を出来る環境が少ない事と、活用方法と効果に関してのビジョンが明確になっていないことが要因であると考えられる。

今後の課題

今後、eラーニングコンテンツを試案するうえでは、夜間や、休日等のプライベートな時間でも学習しやすい環境として、1つのコンテンツ内容を短くまとめたうえで何章かに分けることが必要で、各章の時間を10~15分程度と、学習負担が少ない時間設定が重要であると考えられる。

また、動画を見て学ぶだけではなく、テキストの併用や、重要なポイントの解説が明確に解るような環境の設定、理解度の確認も含めた確認テストはコンテンツを構成するうえで非常に重要であるといえる。そして、より学習効果高めるうえで、復習などの反復学習が行いやすいコンテンツシステムにすることが重要であると考えられる。